

2016年度 第3回 番組審議会 議事録

I. 開催概要

2016年12月12日(月)16時00分～16時55分 キッズステーション本社会議室

II. 出席者

1. 審議委員 : 7名

鵜沢由美子 (明星大学 人文学科 人間社会学科 准教授)
蛭原英里 (チャイルド・ボディ・セラピスト)
北風祐子 (株式会社電通 マーケティングソリューション局 部長)
菅谷 実 (慶應義塾大学名誉教授)
高芝利仁 (弁護士)
田口成光 (脚本家・放送作家)
大地丙太郎 (アニメ監督)

[50音順;敬称略]

2. 事業者側 : 7名

[経営] 山本 雅 (代表取締役社長CEO)、山中崇之 (取締役COO)
[編成] 押田聖弘 (編成部長兼制作部長)、生駒裕之 (編成部長代理)、
竹内誉人 (制作部長代理)
[事務局] 飯野博之 (経営企画室長兼広報室長)、孫 英活 (広報室長代理)

III. 議事内容

1. 社長挨拶 株式会社キッズステーション 代表取締役社長CEO 山本 雅

本年度3回目の開催となる番組審議会にお集りいただき、有り難うございます。本日合評頂く番組は、テレビ東京で10月から放送が始まり、当社でも3週間後にお届けしている「きんだーてれび」となります。当番組のコーナーの一つ、「ハピクラキャラクターズのひらがなみつけちゃおう」が当社製作番組としては地上波キー局初露出となり、当社Ch視聴誘導とIP(知的財産)ビジネスにおける当社キャラクター認知向上といった点で、チャレンジングな取り組みでもあるということもお含みおきの上、忌憚ないご意見をいただければ幸いです。

2. 番組審議 司会進行: 北風委員長

対象番組 「きんだーてれび」第1話・第2話 (各15分)

・放送日時 : 毎週日曜11:45～12:00 ※初放送:10月23日(日)

・ターゲット : 未就学児

「きんだーてれび」合評: 委:番組審議委員/局:キッズステーション

局:「きんだーてれび」は10月より、地上波キー局ではテレビ東京とその系列局、衛星波とケーブル経由ではキッズステーションが3週間遅れで放送を開始しています。「アンパンマン」や「ウォーリーをさがせ!」をはじめとした児童書などの書籍販売や、保育関連施設向けに遊具や教材、玩具を販売している、フレーベル館の創業110周年、同社発行の月刊保育絵本「キンダーブック」創刊90

周年を記念して製作された子ども向け新番組となります。地上波での朝の放送時間帯と被らないよう、キッズステーションでは毎週日曜日昼前の11:45～12:00に放送しています。

当番組は大きく五つのコーナーから構成されており、放送される順序ではありませんが、一つ目はハピクラキャラクターズの4人がひらがなを50音順に楽しく紹介するショートアニメーション、「ハピクラキャラクターズのひらがなみつけちゃおう」になります。当社製作番組「ハピクラ」の一部ではありますが、地上波キー局初登場となります。

二つ目は「ぴったんこ！ねごさかな」。原作がフレーベル館から発行されている絵本になり、今回が初アニメ化となります。

三つ目は「おはよう！コケッコーさん」。これもフレーベル館発行の絵本が原作となります。以前、地上波Ch及び衛星放送Chで放送されたことがありましたが、今回は装いも新たに製作されたCGアニメでの放送となります。

四つ目は「きもしば」となります。キャラクター自体はアニメになっていますが、所々実写が入っているということで、他の作品とは趣が異なっております。原作は文具メーカーのクーリアになります。

五つ目は「ケロポンタウン」。子ども向け楽曲や体操を創作する女性二人組、ケロポンズの歌と踊りのコーナーです。10月はケロポンズの代表曲、エビカニクスを取り上げています。

以上、大きく五つの異なるコーナーから、「きんだーてれび」は構成されています。尚、1月からは、構成内容が若干変更する予定です。

委：アニメが三作品、「きもしば」以外は絵本が原作のようですが、個人的にはこれら三作共シュールな出来であると感じております。四コマ漫画的でもあり、大人でも十分楽しめる番組だと思いました。

ただ、「きんだーてれび」は子ども向け新番組ということなので、一つくらいは、幼児向けの冒険ものというか、よりストーリー性の強いものが入っていてもよかったですのではないのでしょうか。

ところで、「きんだーてれび」の対象年齢はどれくらいなのでしょう。か。「アンパンマン」と比べてどうなのでしょう。

局：「きもしば」はシュールな感じではありますが、「ぴったんこ！ねごさかな」、「おはよう！コケッコーさん」に関しては製作意図としては子ども寄りに作っており、対象年齢は3歳くらいまでとなっています。「アンパンマン」もそれほど変わらないと思いますが、セリフが多い分、見ている子どもの年齢は4・5歳と少し上になるかも知れません。

委：「きもしば」は、1話目の冒頭にある路地の真ん中の水路の実写と、2話目の初めに出てくる奥の階

段の実写は妙にシュールな感じで、個人的にはとても興味深く見させてもらいました。欲を言えば、もう少し長めにストーリー展開してくれたら嬉しかったですね。

委：私の子どもがちょうど対象年齢にあたり、一緒に見させてもらって気付いたのですが、番組オープニングの今日のメニューというところで流れる「きんだーてれびの歌」で、歌詞が出れば親子一緒に歌いやすくなり、もっとよくなるのではないのでしょうか。

「ぴったんこ！ねこざかな」では、猫が魚に食べられるという発想が面白く、でも、互いに協力し合い困難を乗り越えていくというストーリーで、テンポもよく、子どもと一緒に見るのに適していると思いました。

「きもしば」はシュールですね、子どもも驚きを隠せず、時々声を上げて見ていました。親としては毎話気になるテーマを取り上げているようで、大変面白いなと感じました。

「おはよう！コケッコーさん」は、どういった視点で捉えてよいものか、少し考えました。家庭での母親の役割が描かれ、忙しいお母さんを手伝おうといった、小さな子どもに向けてのメッセージが込められているのでしょうか。

「ケロポンタウン」のエピカニックスの歌は、面白い踊りもあり、子どももテンションが上がり、体を動かしながら、とても楽しく見ていました。

「ハピクラキャラクターズのひらがなみつつけちゃおう」では、子どもはとてもよく反応して、ひらがなを声に出して見ていました。これから文字を順に覚えていくのが楽しみです。

「きんだーてれび」は、さまざまな原作の絵本が基になり、歌と踊りもあり、子どもだけでなく家族で楽しめる、とてもよい番組だと感じました。

局：実は、「きんだーてれび」のコーナーの並び順は、皆さんに見ていただいた2回目までの放送では「ぴったんこ！ねこざかな」、「きもしば」、「おはよう！コケッコーさん」と並べていたものを3回目以降変え、最後に「きもしば」を置くことによって、全体の流れをさらによくしています。

局：3回目以降の放送では「ぴったんこ！ねこざかな」、「おはよう！コケッコーさん」という並びになります。特に「おはよう！コケッコーさん」について付け加えると、見ていただいた通りアニメはCGで作られていますが、絵本では実物を配したジオラマ風の作りになっています。3回目以降のエンディングではそのジオラマ作りの現場映像が入っています。両作品とも多くの保育園児・幼稚園児に既に絵本で親しまれている作品です。

委：「きんだーてれび」を見て最初に感じたのは、各コーナーで使われる言葉の面白さという点ですね。「ぴったんこ！ねこざかな」での“野良猫は自由気ままな猫である”とか、「きもしば」では意図的に大人言葉が使われており、「おはよう！コケッコーさん」では、家族皆で体操する場面で、“適当に回りながら深呼吸”のようにおかしく言ったり、「ハピクラキャラクターズのひらがなみつつけちゃおう」では、ひらがなと単語を一つ一つ丁寧に学び、また、「ケロポンタウン」の歌うエピカニックスのクスはエア

ロビクスのカスとかけているようで、歌も踊りもノリがよく、子供にとって楽しく見られるのではと思いました。これらの言葉を使った遊びを視聴者がどう受け取るか興味深いですね。

他にも遊び心というか、「きもしば」で画面がザ一となるところがありますが、あるスリラー映画を意識しているように思いました。

局：「ケロポンタウン」のエビカニックスはかなり前から人気があり、先ず2007年にCDシングルで発売され、2012年にYouTubeにアップされ、さらに人気が出て、現在YouTubeでの動画視聴も1,700万回を超えています。

局：最近ある地上波ネット局の番組コーナーにケロポンズが出演していました。小さな子どもたちの間でケロポンズの歌と踊りを真似するのが流行っていると聞いています。

局：ケロポンズは、一ヵ月間四話続けて同じ歌と踊り、その後は、別の楽曲に替って行きます。

委：それぞれのコーナーは特色がある描かれ方がされており、とても面白いのですが、全体的には統一性がないかなと思いました。

各コーナーについて気付いた点を申し上げますと、「ぴったんこ！ねこざかな」で、猫と魚が力を合せて、危機を乗り越えるというストーリーの発想と展開には感心しました。

「きもしば」は、ストーリー性を特に意識して見ずとも単にギャグを楽しめる作品なのかと思いました。

また、「おはよう！コケッコーさん」は、絵がきれいで、しかも物語としては昭和の雰囲気醸成していて、個人的には一番の好みでした。

あと、「ケロポンタウン」でのケロポンズの歌と踊りもよいものだと感じました。

局：「きんだーてれび」は、各コーナーが製作委員会方式で作られているもの、一社提供の作品、クッションとしての1分のコーナーから構成されている為、はじめて見る方は、統一感なく受け取られるかも知れません。

局：地上波、衛星波、ケーブルでの視聴率の出し方とその結果には少しずつ違いがありますが、それぞれを参考に委員会で随時協議しながら、回が進むにつれ、コーナーの並び順を変えるなど、「きんだーてれび」をより分かり易い、よいものにするよう努めております。

委：全体的に「きんだーてれび」は、とても楽しみながら高校一年生の娘と見ました。「きもしば」は特に面白いですね。子どもは初め怖そうという感じで見ていましたが、私は見終わった後すぐ次の回を見たい、何本も続けて見たいと思いました。

前後しますが、番組の初めに出てくるパンダですが、「きもしば」とは何ら関係はないのかも知れま

せんけれど、やさぐれた感じが出ていて面白く、共通点を感じ、なぜかこのパンダに目が行きました。

「ぴったんこ！ねこごかな」では、猫と魚が二つ合わさり、協力し合ってパワーが出るところが、子どもにも分かり易く、よいと感じました。魚の中に猫が入る、そして逆に猫の中にも魚が入るという発想が面白いですね。

「おはよう！コケッコーさん」は、ジェンダー的に捉えますと、子沢山で休む間もなく家で働いているお母さんの脇でお父さんは手伝いもせず新聞、朝外に働きに出るのもお父さんというように、典型的な家父長制というものが見る者に刷り込まれるようで、違和感を覚えました。これはやはり、原作の絵本に則ってアニメが作られているからなののでしょうか。現代社会で働くお母さん方が、週末の午前にこれを見てどう感じるのかなと思いつつ見させてもらいました。

委：「きんだーてれび」を最初に見終わった時の印象としては、全体的に統一感のない構成のように見受けました。

皆さんが言われるように、大人の言葉使いをしている「きもしば」は、小さな子ども向けというよりは、ずっと上の中学生くらいに好まれるのではないのでしょうか。

「ケロポタウン」でのケロポソンのエビカニックスは、歌もダンスも単純軽快で、英語バージョンの放送もあれば、小さな子どもでもさらに楽しめるのではと思いました。

「ぴったんこ！ねこごかな」では、水陸両用の組合せの発想がとてもユニークで、話しの展開が面白く、もっと奇想天外にしても受けると思います。

「おはよう！コケッコーさん」は、私も確かにどういう視点から見てよいのか分かりませんでした。お父さんの大きな一声で、騒いでいた子どもたちがすぐに静まり、結局お父さんが一番いい役回りを演じているように描かれていると思いました。また、お母さんは少しぐうたらママ風に最初は描かれていましたね。

「ハピクラキャラクターズのひらがなみつつけちゃおう」は、見ていて全く問題なく、無難な作りだと感じました。

あと、番組最初のメニューでの各コーナーの紹介は、意味があるのかよく分かりませんでした。

委：個人的には、メニューの部分はあってよいかなと思いました。これから何が始まるのかが予告されていて分かるし、メニューのおかげで最後は踊りのあるコーナーで終わるのだなと理解しました。

局：五つの異なるコーナーを一つにまとめている番組になるので、各コーナーがどういうものかを紹介する目的と、コーナー毎に長さが違うので、時間調整という役割も果たす為、このメニュー場面を設けています。また、きんだーちゃんという設定で、カメラというかディレクターが登場していますが、恥ずかしながら、これまできちんとこの子の紹介が出来ずに流れています。

委:「きんだーてれび」は、各コーナー互いに関連性はないという感じなのですが、見終わってから、もう少し長く見たい、もっと見たいと思わせるところが、よいところなのかなと感じました。

「ぴったんこ！ねこざかな」は赤青黄と色あざやかで、短い構成の割に、結構ドキドキする適度な刺激もあり、見ていて面白かったですね。成長過程における子どもの情緒教育にはよいのではと思いました。

「きもしば」は大人でも楽しめて面白い半面、気味悪さもあり、中学生になる子どもは、怖そうに感じたのか、冒頭の都内某所という部分で席をはずしてしまいました。

「おはよう！コケッコーさん」は、原作における物語の設定が、今時は批判を受け易い時代のものかも知れませんか。

局:確かに「おはよう！コケッコーさん」は、時代設定というか、世界観が昭和という感じがします。これは製作者に意図を聞いてみたいと思います。

局:製作委員会では少しとんがったものを入れたいという思いがありましたが、今回あらためて「きもしば」にインパクトがあり、大人にも気に入られているのだと実感しました。「きもしば」が終わって入れ替わる作品が、全く違う作風になりますので、今後どれほどのものになるか、少し心配でもあり楽しみでもあります。

局:「きんだーてれび」について、合評コーナーではさまざまなご意見を伺うことができました。どうも有り難うございました。

3.視聴者からの意見の紹介

局:カスタマーセンターから上がっている10月末時点での最新業務報告よりすると、視聴者からの編成に関する意見が多く寄せられており、その中から代表的なものをいくつか取り上げさせていただきます。

- ・いつも拝見しております。キッズステーションは子ども向けアニメチャンネルですが、大人も楽しめるアニメを放送して下さり、有り難うございます。最近懐かしいアニメを見ては、子どもの頃を懐かしく思っております(女性)。
- ・鳥取県は局も少なく見られるアニメがほとんどないので、アニメ専門チャンネルのキッズステーションはとて有り難く、懐かしいアニメも放送されよくダビングさせていただいています。これからも懐かしいアニメや新作アニメの放送楽しみにしています(女性)。
- ・「土曜徹夜しナイト」での「CAPTAIN HERLOCK」、待ってたんですよ。この前、見逃してたんでね。有り難うございます(男性)。

- ・子どもが、いつも楽しく見させて頂いています。午後6:30～の「おそ松さん」ですが、夕方に放送する内容でしょうか。この時間帯は幼児も見ています。全てが下ネタではなく、ギャグが多くて面白いのは知っていますが、少し時間が早すぎるのではと感じます(女性)。

以上、10月度は編成に関する視聴者からの意見が計14件あり、その内懐かしい作品を放送してくれて有り難いというものが11件、作品内容により編成時間を一考願いたいとの意見も3件あり、それぞれ今後の編成を考える上での貴重な参考意見として賜りました。

局：これにて、本年度第3回番組審議会を終了させていただきます。有り難うございました。

4.その他事項

- 2016年度第4回番組審議会については、決定次第ご連絡いたします。

以 上